

三菱自動車からのお知らせ

平成26年度(2014年度)のご報告
2014年4月1日～2015年3月31日

ルート
Route



Drive@earth

持続的成長と企業価値の向上に向けて



取締役会長 兼 CEO
Osamu Masuko

益子 修

平素は格別のご高配を賜り、まことにありがとうございます。

2014年4月から3か年の中期経営計画「ニューステージ2016」の初年度が終わり、2014年度は増収に加え、利益面では営業利益、経常利益、当期純利益のすべての利益項目で過去最高益を達成するなど、財務面での再生以降、当社が成長企業へと着実に転換を遂げつつあることを、実績として株主の皆様にお示しすることができ、大変嬉しく思っております。

自動車業界におきましては、成熟国を中心に環境規制が厳しくなっていますが、新興国において



取締役社長 兼 COO
Tetsuro Aikawa

相阿 哲郎

も、モータリゼーション(自動車の大衆普及)が進んだその先には、同様の環境規制対応が待ち受けています。当社は、EV(電気自動車)やPHEV(プラグインハイブリッドEV)車といった電動車両の開発・生産・販売に注力していますが、これからいよいよ本格的に環境対応車の需要が加速する中で、EV、PHEVの先駆者として、当社が社会のお役に立てる機会が広がっていくと考えています。

今後も持続的成長と企業価値の向上を追求してまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2014年度の振り返りとこれからの三菱自動車

→ 就任1年を振り返って

2014年度は、当社グループの中期経営計画「ニューステージ2016」の初年度として、そこで掲げた6つの重点施策「戦略商品投入による売上高の増大」「次世代技術開発の推進」「新興市場を基盤とした成長戦略と成熟市場の収益性改善」「事業構造の改革」「安定した経営基盤の確保のための成長投資」「品質改革への取り組み」を基本方針に、持続的成長と企業価値向上の実現に向けて着実に各種取り組みを進めました。

その結果、2014年度の販売台数は、『アウトランダーPHEV』が好調に推移した西欧、中国の广汽三菱を中心に販売を伸ばした北アジア、景気回復基調の続く北米を中心に順調に伸長し、売上高は3期連続の増収、利益面ではすべての利益項目で過去最高益を達成することができました。

当社が追求している姿は、「大きな会社」ではなく「強い会社」です。その意味で、私は、収益力の「強さ」を示す指標の一つである営業利益率が、6.2%（前期比0.3ポイント上昇）に改善したことは、コスト低減努力等の各種取り組みの成果として、評価できていると思っています。また全社を挙げて取り組んでおります品質面でも、「カスタマーファースト・プログラム」等の品質改革推進活動の

成果が表れ、定量的目標「クオリティー・ターゲット」^(※)の全項目で大幅な改善が見られました。今後も、クルマに関わるすべての品質において業界トップレベルを目指し、引き続き品質改革への取り組みに注力していきます。

一方で、新たな課題も認識しています。当社が強みとしている地域の一つであるタイでは、景気の低迷等を背景に2014年度の販売台数が前年度を下回ったほか、ルーブル安や原油価格下落の影響で市場環境が急速に悪化したロシアでも、販売台数が前年度割れとなりました。中期経営計画の発表後に大きな市場変化が見られたこれら地域においては、市場環境を見ながら業績の落ち込みを最小限にとどめると同時に、他地域でカバーすることで全体での成長を持続させていけるよう、対策を講じていきます。

(※)クオリティー・ターゲット

2014年以降投入する新型車において、以下を目標として取り組む。

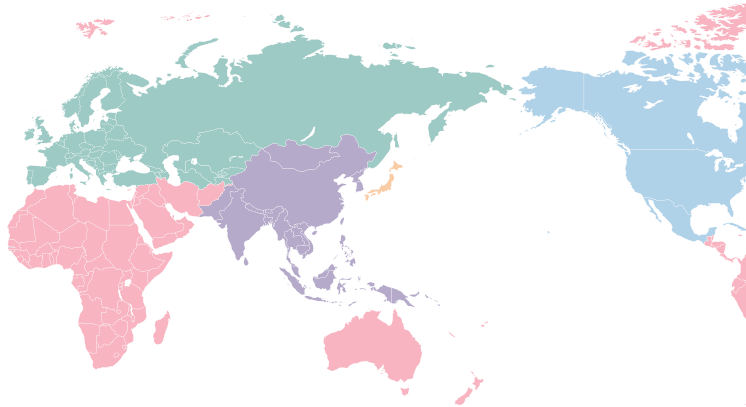
1. 納車後3ヶ月間に発生する不具合の件数を、2012年度実績に対し、半減させる。
2. サプライヤーからの納入部品不良率を、2012年度実績に対し、半減させる。
3. 市場で不具合が発生してから対策決定までの期間を、2012年度実績に対し、半減させる。

→ 当期の決算の概況

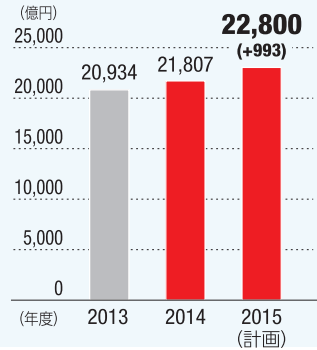
2014年度の売上高は、前期比4%増の2兆1,807億円となりました。営業利益は、販売費や研究開発費の増加や、車種構成等がマイナスとなった一方、コスト低減努力や為替の好転により、前期比10%増の1,359億円となりました。経常利益は前期比17%増の1,516億円、当期純利益は前期比13%増の1,182億円となりました。

販売台数は、前期比4%増の1,090千台となりました。日本では、登録車、軽自動車ともに前期を下回り、前期比20%減の115千台となりました。北米は、米国の景気回復基調が強まる中、『アウトランダースポーツ』や『ミラージュ』の販売が好調に推移したことにより、前期比21%増の117千台となりました。欧州では、経済情勢が大幅に悪化したロシアの販売が前年割れとなりましたが、西欧で『アウトランダーPHEV』が好調に推移したことから、地域全体では前年度比13%増の227千台となりました。アジアでは、タイが総需要の回復の遅れにより低迷しましたが、中国において広汽三菱を中心に販売が好調に推移したことから、地域全体で前期並みの344千台となりました。その他地域では、中東地域での販売が好調に推移し、地域全体で前期比10%増の287千台となりました。

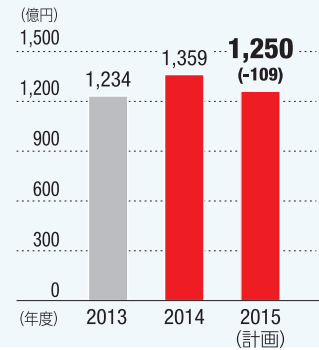
2015年度(2015年4月1日～2016年3月31日)の販売台数計画は、アジア10%増、北米9%増、その他地域3%増とする一方で、日本は7%減、欧州はロシアの台数減少が大きく16%減とし、全体では前期比1%増の1,100千台を計画しています。この結果、売上高は、2兆2,800億円(前期比5%増)を計画しています。利益については、為替のマイナス影響が大きいことや研究開発費を増加させることを前提に、営業利益が1,250億円(前期比8%減)、経常利益が1,300億円(同14%減)、当期純利益が1,000億円(同15%減)と減益を見込んでおります。



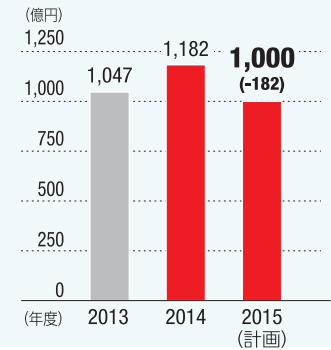
→ 売上高 ()は前年比



→ 営業利益 ()は前年比

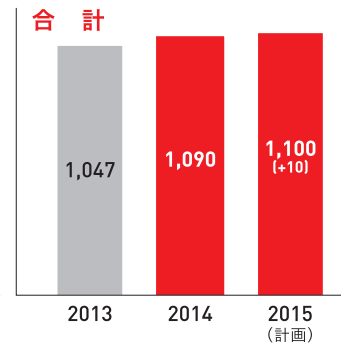
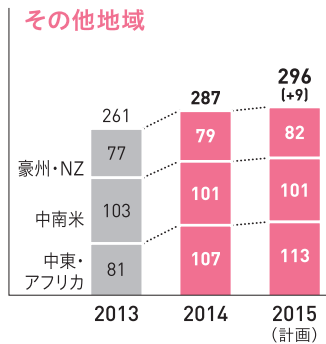
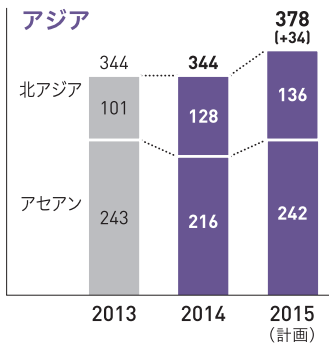
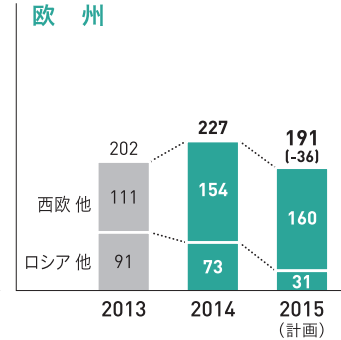
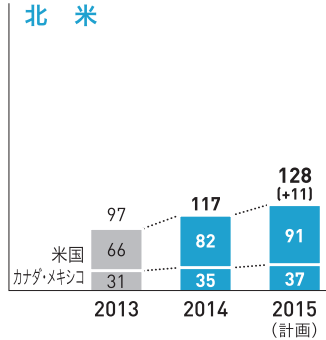
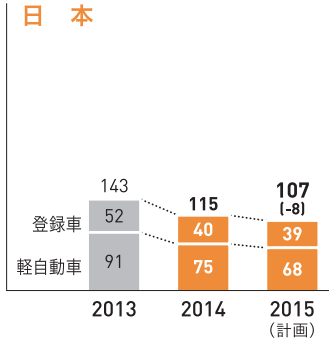


→ 当期純利益 ()は前年比



→ 地域別販売台数 (単位:千台/年度) ()は前年比

- 日本
- 北米
- 欧州
- アジア
- その他地域





→ 中期経営計画 「ニューステージ2016」 の進捗について

新興市場 アセアン地域での事業基盤の強化

2014年度は、本年2月のフィリピン新工場での本格生産開始に続きインドネシアでも2017年4月の操業開始に向けた新工場の建設を始めるなど、アセアン地域での生産体制の整備を進めました。

フィリピンは1人当たりGDPが約2,700～2,800ドルと、一般にモータリゼーションが加速する水準と言われるGDP3,000ドルを目前に控えています。1963年の進出以来、50年以上にわたり地道に事業基盤を固めてきた当社のシェアは現在約20%と、多くのお客様からご支持いただいておりますが、新工場での生産能力拡充を通じて今後の市場伸長に役立てていきます。

インドネシアでは、政府による自動車振興政策の後押しもあり、今後もさらなる市場拡大が見込まれております。中でも6～7人乗りのコンパクトカーには高い需要があります。新工場では新型SUV（スポーツ多目的車）『パジェロスポーツ』や

市場の需要に応じて新たに開発する小型MPV（多目的車）、さらには現在委託生産で展開している小型商用車『COLT（コルト） L300』等の生産を計画しており、将来的にはタイに続くアセアン地域の主要生産拠点へと強化していきます。成長市場でもあり、当社の利益の柱でもあるアセアン地域での事業基盤を引き続き強化していきます。

環境対応 戦略商品の拡販

戦略商品については、今後も中期経営計画に沿って市場に投入していきます。

昨秋タイで発売した新型『トライトン』は、アセアン各国への輸出に続き、今後約140カ国へと輸出を拡大します。2015年度はタイで新型『パジェロスポーツ』を投入するほか、2016年春には戦略商品『アウトランダーPHEV』を北米に投入します。

『アウトランダーPHEV』は、環境意識が高く政府による補助金等の制度が充実している西欧のほか、国内でも好評を博しており、販売台数が大きく伸長しています。欧米や日本などの成熟国での環境規制は、今後さらに強化される方向に進むほか、新興国もモータリゼーションが進めば規制は避けては通れない道となります。世界の電動車両市場は、2013年の約26万台規模から2020年

には約250万台の市場規模に拡大すると言われており、その流れの中で、当社の技術的優位性や実績を訴求し、存在感をさらに高めていきたいと思えます。

また当社の強みの一つであるSUVは、他社に先駆けて競争力のある商品を市場に投入していきます。SUVは、道路環境が必ずしも整備されているとは限らない新興国では実用的なクルマとして多くのお客様に選ばれています。先進国でも、自動車市場全体が大きく伸びない中、便利なクルマとして好まれる傾向が続いています。当社の電動化技術における強みとSUVの強みを融合し、今後開発するすべてのSUVに電動技術の搭載を検討していきます。

商品力強化 ブランドの再構築に向けて

電動車両のリーディングカンパニーとして持続的成長を実現するためには、商品力の核である電動化技術の革新が鍵となります。再生企業から成長企業への転換を果たす中、今後は、研究開発投資や設備投資を増強し、技術革新や生産性向上を図ります。

加えてデザインも、お客様がクルマの魅力を判断する上で重要な要素です。見ただけで「三菱のクルマだ」と認知いただけるよう、デザインにア

イデンティティを持たせ、ブランドを再構築していきます。当然のことながら、ブランドの土台となる品質面で万全を期すことが大前提とした上で、商品力強化に取り組んでいきます。

→ 株主還元策について

株主の皆様への還元につきましては、2014年度は1株当たり期末配当金を直近の予想より1円増配の8.5円、通期では第2四半期末配当の7.5円と合わせ16円とさせていただきます。今後も、企業価値向上に不可欠な成長戦略のための投資や財務基盤の強化とのバランスを考慮しながら、株主の皆様への安定的かつ継続的な配当の実施に努めてまいります。

いよいよこれから時代はEV、PHEVの本格普及期に入ります。これは換言しますと、この分野のリーディングカンパニーである当社のクルマの魅力や優位性が、多くの方々にご認知いただけるチャンスの到来でもあります。株主の皆様には、今後の成長にご期待いただきつつ、引き続き変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2015年6月

取締役社長 兼 COO

相川 哲郎
Tetsuro Aikawa

→ アセアン地域における生産体制の拡充



フィリピンの新工場

当社が最重要市場と位置付けるアセアン地域では、当社の海外生産拠点において最大の生産能力を有するタイに加え、2015年2月からはフィリピンの新工場で大格生産を開始したほか、同年3月にはインドネシアにて新工場建設の起工式を行うなど、生産体制の拡充が進んでいます。

フィリピンの新工場(ラグーナ州 サンタローザ市)は、2014年12月に閉鎖した旧工場(リサル州 カインタ市)を上回る年間5万台の生産能力を有しており、旧工場で生産し

ていた『アドベンチャー』と『L300』の生産を開始しました。

2017年4月に生産開始予定のインドネシアの工場では、新型SUV(スポーツ多目的車)『パジェロスポーツ』、次いで新たに開発する小型MPV、その後現在の委託生産車種である小型商用車『COLT(コルト) L300』等を生産する予定です。生産能力は年間16万台を計画するなど、タイに続くアセアンの主要生産拠点として重要な役割を果たすことを期待しています。



インドネシア新工場の起工式

→ モーターショーを通じた積極的な広報活動

当社は、2015年3月に開催された第85回ジュネーブ国際自動車ショーに、新たなプラグインハイブリッドEVシステムを搭載した小型SUVのコンセプトカー『MITSUBISHI Concept XR*1-PHEV II(ミツビシ・コンセプト・エックスアール・ピーエイチイーブイ・ツー)』を世界初披露したほか、今夏より欧州で販売を開始する予定の新型ピックアップ



[MITSUBISHI Concept XR-PHEV II]



新型[L200(欧州仕様)]

トラック『L200』を欧州初披露し、好評を博しました。また続く4月には、米国ニューヨークで開催された2015年ニューヨーク国際自動車ショーにて、2016年モデルの『アウトランダー』(北米仕様車)を世界初披露しました。この2016年モデルは、フロントデザインなどを大幅に変更することにより、上質でありながらSUVらしいダイナミックで力強いデザインとしており、さらに、静粛性、乗り心地、操縦性、加速性能を向上させる約100カ所におよぶ改良を施すことで、よりスポーティで上質な走りを実現しています。

*1 XR…X(cross)over Runner の略。街中をきびきびと走るスタイリッシュなクロスオーバーという意味。

→ 株主様向け 埼玉スタジアム見学会のお知らせ

下記のとおり株主様向け埼玉スタジアム見学会を開催いたします。
皆様のご応募をお待ちしております。

見学ツアー概要

開催場所: 埼玉スタジアム2002(埼玉県さいたま市)

当社がスポンサーをしている浦和レッズのホームスタジアムです。

浦和レッズのほか、日本代表等の大規模試合が開催されるアジア最大級のサッカー専用スタジアムです。

集合・解散: 埼玉高速鉄道線 浦和美園駅 改札口
(バスにてスタジアムまで送迎いたします。)

※スタジアムへの直接のご来場はご遠慮ください。

開催日程:	開催日	集合	見学会(予定)
①	2015年9月17日(木)	9:00	9:15~12:30
②	2015年9月17日(木)	13:30	13:45~17:00
③	2015年9月24日(木)	9:00	9:15~12:30
④	2015年9月24日(木)	13:30	13:45~17:00



内容: 経営概要等説明の後、徒歩にてスタジアム内の見学を予定しております。
スタジアムツアーでは選手たちが実際に使用するロッカールームやピッチサイド等をご案内する予定です。

※シーズン中につき、選手及び監督は出席いたしませんのでご了承ください。

対象者: 2015年3月末時点 当社株主の方+同伴者1名様まで可(小学生以上)

募集人数: 各回 50名様(含:同伴者)

参加費: 無料(集合・解散場所までの往復交通費や宿泊費等は各自のご負担とさせていただきます。)

応募要領

応募方法: 下記のとおり郵便はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご応募ください。なお、同一株主様の複数応募は無効といたしますのでご注意ください。

応募締切日: 2015年7月15日(水) 必着

当選発表: 厳正な抽選のうえ、当選発表につきましては当選者へのご連絡(8月下旬頃予定)をもって代えさせていただきます。その際、当日の運営等詳細をあわせてご連絡いたします。

※ご応募により当社が取得する個人情報等は、本見学会を実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。

郵便はがき

52円
切手

10088410

総務渉外部
株主様イベント係行

三菱自動車工業(株)

東京都港区芝5丁目33番8号

- 希望参加日時
上記①~④の開催日程から
いずれか1つをお選びください。
- 郵便番号
- 住所
- 自宅電話番号
- 当日ご連絡可能な連絡先
(携帯電話番号)
- 氏名
(ふりがなをご記入ください)
- 年齢
- 同伴者がいらっしゃる場合は、
同伴者の住所、氏名、年齢を
お願いします。

お問合せ先

三菱UFJ信託銀行株式会社内 三菱自動車 株主様イベント係

電話番号: 0120-313-282

9:00~17:00(土・日、祝祭日を除く)


→ 会社の概要 (平成27年3月31日現在)

社 名… 三菱自動車工業株式会社
 本 社… 〒108-8410
 東京都港区芝五丁目33番8号
 TEL : 03-3456-1111 (大代表)
 設 立… 昭和45年4月22日
 従業員数… 連結: 30,498名 単独: 12,848名
 資 本 金… 165,701,243,103円

| 役 員 (平成27年6月24日現在)

取締役	益子 修*	取締役会長 兼CEO	服部 俊彦	取締役
	相川 哲郎*	取締役社長 兼COO	泉澤 清次	取締役
	春成 敬*	取締役副社長	安藤 剛史	取締役
	中尾 龍吾*	取締役副社長	佐々木 幹夫	取締役 (三菱商事株式会社相談役)
	上杉 雅勇	取締役副社長	坂本 春生	取締役
	青砥 修一	常務取締役	宮永 俊一	取締役 (三菱重工工業株式会社 取締役社長、CEO)
	田畑 豊	常務取締役	新浪 剛史	取締役 (サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長)
監査役	福田 滝太郎	監査役 (常勤)	岩波 利光	監査役 (日本電気株式会社 特別顧問)
	中村 義和	監査役 (常勤)	竹岡 八重子	監査役 (光和総合法律事務所 弁護士)
	永易 克典	監査役 (株式会社三菱東京UFJ銀行 取締役会長)		

- 注) 1. *印は当社における代表取締役を示しています。
 2. 取締役 佐々木幹夫氏、坂本春生氏、宮永俊一氏、および新浪剛史氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
 3. 監査役 永易克典氏、岩波利光氏、および竹岡八重子氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

 表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。
 表紙：三菱自動車 デザイン部 熊谷周作



→ 株式情報 (平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,575,000,000株

発行済株式総数 983,661,919株
株主数 333,076名

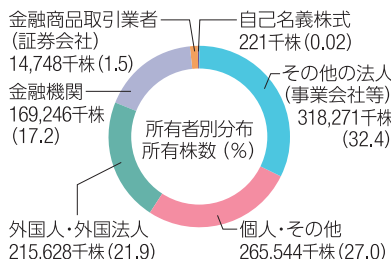
大株主 (平成27年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三菱重工株式会社	124,293,855	12.63
三菱商事株式会社	99,044,251	10.06
MHIオートモーティブキャピタル合同会社MHC株式運用匿名組合1	38,638,625	3.92
株式会社三菱東京UFJ銀行	38,517,159	3.91
MHIオートモーティブキャピタル合同会社MHC株式運用匿名組合2	33,968,253	3.45

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,342,000	2.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,477,200	1.87
JP MORGAN CHASE BANK 385632	13,855,969	1.40
三菱UFJ信託銀行株式会社	13,014,521	1.32
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	11,219,760	1.14

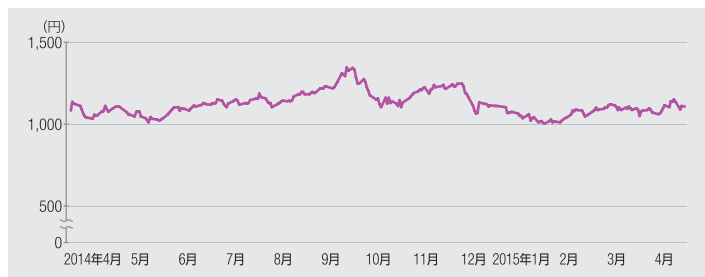
所有者別株式分布状況

(平成27年3月31日現在)



株価の推移

(平成27年4月30日現在) ■ 三菱自動車株価(調整後/終値)



株式手続のご案内

- 事業年度……………4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会
開催時期……………毎年6月
- 同総会議決権
行使株主確定日……………3月31日
- 期末配当金
支払株主確定日……………3月31日
- 中間配当金
支払株主確定日……………9月30日
- その他の基準日……………上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
- 公告の方法……………電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

(公告掲載アドレス) <http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html>

- 1単元の株式数……………100株
- 証券コード……………7211
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
……………三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所……………三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
- 郵便物送付先……………三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL: 0120-232-711 (フリーダイヤル)

※ 住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種手続き等のご請求について

1. 証券会社等の口座をご利用の場合
…お取引の証券会社等にお問い合わせください。
2. 「特別口座」に記録されている場合
…三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-711)にお問い合わせください。